



あざかみりほ
阿座上 里帆 (竜王中学校 3年)

ハイスクールで日本語の授業に参加しました。学年が上がるにつれて、習う日本語のレベルも高くなり、私たちにとっては、日本語を英語で教えるいい機会となりました。英語で表現して伝えることはすごく難しかったけど、伝えたいことを一生懸命理解しようとしてくれたみんなの姿がすごく励みになり、嬉しかったです。また、私から積極的に挨拶をして、コミュニケーションをとるように心がけました。みんなすごくフレンドリーで向こうからもたくさん話しかけてくれ、緊張や不安もそこでなくなりました。私は、オーストラリアの方々のおかげで救われることが、本当にたくさんありました。オーストラリアで関わったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。



くぼたみはる
久保田 美春 (埴生中学校 3年)

ずっと夢だったホームステイは、想像していた以上に素敵な10日間でした。日本とは違う生活様式、言葉、習慣など何もかもが私を驚かせました。私はホストファミリーに日本文化を伝えたいと思い、ちらし寿司を一緒に作ったり、習字を教えたり、折り紙を折ったりして交流しました。残念なことは、私の英語力が未熟だったことです。もっと相手の言葉が理解でき、もっと自分の言葉で表現できたら、より素晴らしい時間になったと思います。帰国後、バディや友だちになった子とメールをしています。次に会った時には英語を使い、今回のホームステイの思い出話ができるよう、これから英語の勉強を頑張りたいです。言葉や文化が違って、人を思いやる心は一緒だと感じました。



つかもとまゆ
塚本 真由 (高千帆中学校 3年)

ホストファミリーが動物園やサイクリングなどに連れて行ってってくれて、日本と違う景色を見たり、たくさんのお話を体験したりしました。お互いの住んでいる地域のことを話し、私の住んでいる地域のパンフレットや地図を見せることで、山陽小野田市のことを詳しく伝えることができました。バディと姉弟は、折り紙と習字に興味を持ち、特に折り紙は何度も楽しんでいました。学校では、日本語を覚えるのが早く、すらすらと言える生徒がたくさんいることに驚きました。今回不安だった英語力も身振り手振りを交えることでたくさんの会話につなげることができました。そして、多くの単語、国によるアクセントの違いを学ぶことができました。この経験を将来に生かしていきます。



はたべなつき
畑邊 夏季 (小野田中学校 3年)

学校では、みんな「hello!」と気軽に声をかけてくれ、とてもフレンドリーで親切でした。たくさんの方が私たちを歓迎してくれて、素敵な思い出がたくさんできました。ホームステイ先のバディとは、本当に親友になることができました。私が帰る日に彼女はハグをしてくれ、泣いてくれました。私は、オーストラリアに来ることができて、本当に幸せだと感じました。このホームステイで楽しく過ごせたのは、いつも優しく気遣ってくれたバディとホストファミリーのおかげです。国際交流に必要なことは、一歩踏み出す勇気、そして相手を思いやる心だと学びました。今後も積極的に外国の人と交流し、日本の良さを世界に伝えていきたいと思っています。



まさだみおか
政田 澪花 (厚陽中学校 3年)

オーストラリアの学校では、習字を教えたりゲームをして楽しみました。日本文化にとっても関心を示してくれ、とても嬉しかったです。また、ホストファミリーはフレンドリーで、ウェルカムボードを準備してくれ、とても温かく迎えてくれました。休日には魚釣りやキャンプファイヤーをしてくれ、楽しい日々を過ごすことができました。ファミリーとは身振り手振りを交えお互いを理解しようと努力し、本当の家族のような絆を築くことができました。帰国の日にはバディと再会を約束し、別れを惜しみました。今回の経験は私にとって、とても素晴らしいものになりました。この海外派遣事業をお世話してくださった全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。



やすしげももか
安重 百華 (厚狭中学校 3年)

学校はこちらとは違い、生徒たちが自分を自由に表現していながらも、そこに調和がありました。お互いを尊重しているからだと思いました。ステイ先では、ファミリーが私を家族の一員のように温かく迎えてくれました。ビーチにマーケット、バーベキュー、全てが新鮮で刺激的でした。私も地図や写真、ホームページを使って、日本や山陽小野田市の魅力を伝えました。また、すき焼きを作ってあげたり、一緒に習字をしたのは、特に楽しい思い出です。そうして日本との相違点を見出す中、絆を大切に作る気持ち、平和を愛する気持ち、家族を想う気持ちは、国境を越えて同じであることを再認識できました。